

ボランティアセンター運営支援システム 提案仕様書

1. はじめに

本仕様書は、明石市社会福祉協議会（以下「当会」という）における日常的なボランティアセンター（VC）運営および災害発生時における災害ボランティアセンター（災害 VC）運営の効率化、情報の一元管理、およびペーパレス化を目的とした運営支援システムの導入に関する要件を定義するものである。

提供されるシステムは、当会独自の運用要件に柔軟に対応できるカスタマイズ性を持ち、災害発生時においても即座に利用可能かつ拡張性を持つクラウド型のソリューションとする。

2. システム導入の目的

- VC 運営の効率化:** ボランティアの受付、ニーズのマッチング、資機材管理などの一連の業務をデジタル化し、運営効率を向上させる。
- 情報の一元管理と可視化:** ボランティア情報、ニーズ情報、資機材情報などのデータを一元的に管理し、リアルタイムでの状況可視化および統計・レポート作成を可能にする。
- 明石市社協独自要件への対応:** 既存の業務フローや将来的な運用変更に対応できるよう、高い自由度と柔軟な改修が可能な基盤を確保する。
- 職員の負担軽減とペーパレス化:** 紙ベースの運用からの脱却を図り、データ入力・集計・共有にかかる職員の業務負担を軽減する。

3. 調達する内容

(ア) VC 運営支援、災害 VC 運営支援システムの初期導入業務

契約予定者と業務委託契約を締結する。業務委託契約の期間は契約締結日の翌日から令和8年3月31日までとする。

※明石市ボランティアセンター運営支援システム初期導入業務を明石市ボランティアセンター運営支援システムソフトウェア一式に含めて契約とすることも可能とする。

(イ) 明石市ボランティアセンター運営支援システムソフトウェア 一式

契約予定者と賃貸借契約を締結する。業務委託契約の期間は契約締結日の翌日から令和8年3月31日までとし、発注者及び 受注者の双方に異存がない場合は、随意契約により年度毎に契約期間を延長する

4. システム要件

4.1. 主要機能要件（機能一覧）

導入するシステムは、以下の機能を有することを必須とする。

No.	機能区分	必須機能	備考
4.1.1	VC コア機能	ボランティア受付管理（登録、スキル、参加履歴）	
4.1.2		ニーズ受付・管理機能（発生からクローズまでの一元管理）	
4.1.3		ボランティアとニーズのマッチング機能	
4.1.4		ボランティアの出発・帰着管理機能（作業時間等の記録含む）（災害VCのみ）	
4.1.5		レクリエーション資機材の貸出・返却管理機能	
4.1.6	分析・報告機能	統計・レポート出力機能（活動時間、ニーズ件数、ボランティア属性等）	
4.1.7	柔軟な拡張機能	Web データベース入出力	Excel データの読み込み
4.1.8		リレーションナルデータベース機能	複数テーブル間の連携設定が可能であること

4.2. 非機能要件

No.	要件項目	内容
4.2.1	導入形態	クラウド型での提供を必須とする。
4.2.2	利用環境	インターネット接続環境があれば、場所を問わず利用できること。
4.2.3	対応デバイス	パソコン(PC)、スマートフォン、タブレットのマルチデバイスに対応すること。コアユーザーの使用において、少なくとも以下のクライアント環境での動作を保証すること。 OS : windows11 Pro CPU : corei5-1235U 2.50GHz メモリ : 8GB エンドユーザーにおいては、Android、iOS、Windows 等複数のOSに対応すること。
4.2.4	柔軟性・改修	構築後も運用しながらの改修が可能な、高いカスタマイズ性を有するシステム基盤であること。
4.2.5	ライセンス形態	災害VC運営の性質上、アカウント数に依存せず、ID制限なく運用できるライセンス形態が望ましい。
4.2.6	セキュリティ	通信の暗号化、データバックアップ、アクセス権限管理が適切に行われていること。個人情報は、対応可能な専用の保管領域(Priv. BOX相当)の提供または連携が可能であること。

4.3 機能要件

- 導入後最低5年間は運用が可能なシステムであること。
- データの蓄積により処理速度に影響を及ぼすことがないよう、またシステムが停止することがないよう必要な対策を講じること。
- 年度切替や人事異動、組織改編に際し、必要なシステム設定が容易かつ迅速に行えること。
- 本仕様書の機能要件がパッケージソフトウェアの基本要件で実現できない場合、カスタマイズにて必要機能要件を実現できること。また、カスタマイズにかかる費用を全て参考見積金額に含むこと。
- 説明書や操作マニュアルを提供すること

5. ターゲットユーザー

5.1. システム管理者および運営者(コアユーザー)

システム全般の設定、データ管理、意思決定のための情報分析、および現場でのボランティアセンター運営を主導するユーザー。

1. 明石市社会福祉協議会(当会職員)：日常のVC運営および災害VCの立ち上げ・運用の中核を担い、システムを恒常に利用する。
2. 災害VC運営に携わる関係者：災害発生時に運営に携わる自治体職員、他社協職員、外部団体等の関係者。データ閲覧、マッチング、指令などを行う。

5.2. 一般利用者（エンドユーザー）

主にボランティアセンターの現場（受付等）で自身の情報入力や確認のためにシステムを利用するユーザー。

1. 一般市民、団体：ニード、福祉学習の申込、レクリエーション用具の予約を想定する。
2. ボランティア：福祉学習の申込、レクリエーション用具の予約、助成金等の申請等を想定する。
3. 災害ボランティア：災害VCにおいて活動するボランティア。受付・帰着時の情報入力を想定する。

6. 導入形態および開発アプローチ

6.1. 導入形態

- クラウド型を前提とし、当会のサーバー構築・運用管理の負担を最小限に抑える。

6.2. 開発・改修方針

- 柔軟な開発体制によるシステムを選定し、導入後の運用の中で発生する細かな改修・調整に継続的に対応できる体制を確保する。
- 構築後の大幅な機能改修については、別途費用が発生することを前提とする。

6.3. ペーパーレス化の推進

- 全機能において、紙ベースでの運用を極力排除し、デジタル完結型の業務フローを実現する。

7. スケジュール

- 公募型プロポーザル方式の日程については、日程表を参照のこと。
- 令和8年1月下旬（予定）発注者による選定後、契約締結
- 令和8年3月～システム導入準備（予定）
- 令和8年4月 システム稼働（予定）